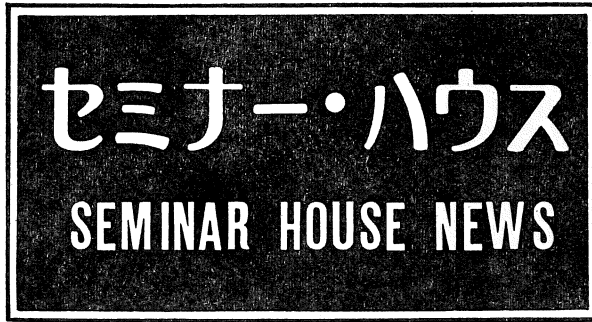


第39号 35円

昭和50年9月25日

内容

今後の大学院教育について……… 1
 大学院館落成・遠来荘完成を祝う 2
 第30回理事会・第19回評議員会… 3
 昭和49年度決算・昭和50年度予算 4
 千人会、千人に達す…………… 4
 第12回大学教員懇談会…………… 6
 第76～78回大学共同セミナー…6～8
 夏のキャンパス風景……………10
 館長日記から……………13
 業務通信… 9 利用状況…11～14



発行
 財団法人 大学セミナーハウス
 <所在地>
 東京都八王子市下柚木
 (〒192-03)
 電話 0426-76-8511～3
 振替口座 東京 74590 番
 <東京事務所>
 東京都中央区日本橋本町3-3
 三井銀行本町支店ビル5階
 電話 東京 (241) 3961
 編集・発行人・飯田宗一郎
 製作 中央公論事業出版

今後の大学院教育について……… 1
 大学院館落成・遠来荘完成を祝う 2
 第30回理事会・第19回評議員会… 3
 昭和49年度決算・昭和50年度予算 4
 千人会、千人に達す…………… 4
 第12回大学教員懇談会…………… 6
 第76～78回大学共同セミナー…6～8
 夏のキャンパス風景……………10
 館長日記から……………13
 業務通信… 9 利用状況…11～14

東大の国立、私立の大学を越えて
 連合してみるとか、宮崎県を中心
 に農学関係の大学院を一緒に作っ
 てみるというような考え方がそれ
 です。現在東大におられる方、早
 稲田におられる方がそのまま連
 合する、つまり、すでにそこにあ
 るものを活用して行くという方法
 です。同時に、今までの大学の講
 座の上に大学院を乗せて行くとい
 うやり方では限界がありそうです
 ので、セミナーハウスが独立し
 て八王子に離れたように、私も

は独立大学院という考え方をとり
 ます。
 イギリスのエリック・アシュビ
 ーは、中世の終りに教会がたくさ
 ん建て、これで宗教は大丈夫だ
 と思つた時、宗教は滅びたとい
 うことをいつております。逆にい
 えば本當の宗教がそこから起こつ
 たわけでありました。現在は世界
 中に先進国では学校がたくさん出
 来ました。学校が栄えて困ってい
 るということにもなりますし、本
 當の教育が起こるといふ意味でチ

は独立大学院という考え方をとり
 ます。
 イギリスのエリック・アシュビ
 ーは、中世の終りに教会がたくさ
 ん建て、これで宗教は大丈夫だ
 と思つた時、宗教は滅びたとい
 うことをいつております。逆にい
 えば本當の宗教がそこから起こつ
 たわけでありました。現在は世界
 中に先進国では学校がたくさん出
 来ました。学校が栄えて困ってい
 るということにもなりますし、本
 當の教育が起こるといふ意味でチ

は独立大学院という考え方をとり
 ます。
 イギリスのエリック・アシュビ
 ーは、中世の終りに教会がたくさ
 ん建て、これで宗教は大丈夫だ
 と思つた時、宗教は滅びたとい
 うことをいつております。逆にい
 えば本當の宗教がそこから起こつ
 たわけでありました。現在は世界
 中に先進国では学校がたくさん出
 来ました。学校が栄えて困ってい
 るということにもなりますし、本
 當の教育が起こるといふ意味でチ

は独立大学院という考え方をとり
 ます。
 イギリスのエリック・アシュビ
 ーは、中世の終りに教会がたくさ
 ん建て、これで宗教は大丈夫だ
 と思つた時、宗教は滅びたとい
 うことをいつております。逆にい
 えば本當の宗教がそこから起こつ
 たわけでありました。現在は世界
 中に先進国では学校がたくさん出
 来ました。学校が栄えて困ってい
 るということにもなりますし、本
 當の教育が起こるといふ意味でチ

は独立大学院という考え方をとり
 ます。
 イギリスのエリック・アシュビ
 ーは、中世の終りに教会がたくさ
 ん建て、これで宗教は大丈夫だ
 と思つた時、宗教は滅びたとい
 うことをいつております。逆にい
 えば本當の宗教がそこから起こつ
 たわけでありました。現在は世界
 中に先進国では学校がたくさん出
 来ました。学校が栄えて困ってい
 るということにもなりますし、本
 當の教育が起こるといふ意味でチ

は独立大学院という考え方をとり
 ます。
 イギリスのエリック・アシュビ
 ーは、中世の終りに教会がたくさ
 ん建て、これで宗教は大丈夫だ
 と思つた時、宗教は滅びたとい
 うことをいつております。逆にい
 えば本當の宗教がそこから起こつ
 たわけでありました。現在は世界
 中に先進国では学校がたくさん出
 来ました。学校が栄えて困ってい
 るということにもなりますし、本
 當の教育が起こるといふ意味でチ



今後の大学院教育について

は独立大学院という考え方をとり
 ます。
 イギリスのエリック・アシュビ
 ーは、中世の終りに教会がたくさ
 ん建て、これで宗教は大丈夫だ
 と思つた時、宗教は滅びたとい
 うことをいつております。逆にい
 えば本當の宗教がそこから起こつ
 たわけでありました。現在は世界
 中に先進国では学校がたくさん出
 来ました。学校が栄えて困ってい
 るということにもなりますし、本
 當の教育が起こるといふ意味でチ

は独立大学院という考え方をとり
 ます。
 イギリスのエリック・アシュビ
 ーは、中世の終りに教会がたくさ
 ん建て、これで宗教は大丈夫だ
 と思つた時、宗教は滅びたとい
 うことをいつております。逆にい
 えば本當の宗教がそこから起こつ
 たわけでありました。現在は世界
 中に先進国では学校がたくさん出
 来ました。学校が栄えて困ってい
 るということにもなりますし、本
 當の教育が起こるといふ意味でチ

は独立大学院という考え方をとり
 ます。
 イギリスのエリック・アシュビ
 ーは、中世の終りに教会がたくさ
 ん建て、これで宗教は大丈夫だ
 と思つた時、宗教は滅びたとい
 うことをいつております。逆にい
 えば本當の宗教がそこから起こつ
 たわけでありました。現在は世界
 中に先進国では学校がたくさん出
 来ました。学校が栄えて困ってい
 るということにもなりますし、本
 當の教育が起こるといふ意味でチ

は独立大学院という考え方をとり
 ます。
 イギリスのエリック・アシュビ
 ーは、中世の終りに教会がたくさ
 ん建て、これで宗教は大丈夫だ
 と思つた時、宗教は滅びたとい
 うことをいつております。逆にい
 えば本當の宗教がそこから起こつ
 たわけでありました。現在は世界
 中に先進国では学校がたくさん出
 来ました。学校が栄えて困ってい
 るということにもなりますし、本
 當の教育が起こるといふ意味でチ

は独立大学院という考え方をとり
 ます。
 イギリスのエリック・アシュビ
 ーは、中世の終りに教会がたくさ
 ん建て、これで宗教は大丈夫だ
 と思つた時、宗教は滅びたとい
 うことをいつております。逆にい
 えば本當の宗教がそこから起こつ
 たわけでありました。現在は世界
 中に先進国では学校がたくさん出
 来ました。学校が栄えて困ってい
 るということにもなりますし、本
 當の教育が起こるといふ意味でチ

は独立大学院という考え方をとり
 ます。
 イギリスのエリック・アシュビ
 ーは、中世の終りに教会がたくさ
 ん建て、これで宗教は大丈夫だ
 と思つた時、宗教は滅びたとい
 うことをいつております。逆にい
 えば本當の宗教がそこから起こつ
 たわけでありました。現在は世界
 中に先進国では学校がたくさん出
 来ました。学校が栄えて困ってい
 るということにもなりますし、本
 當の教育が起こるといふ意味でチ

は独立大学院という考え方をとり
 ます。
 イギリスのエリック・アシュビ
 ーは、中世の終りに教会がたくさ
 ん建て、これで宗教は大丈夫だ
 と思つた時、宗教は滅びたとい
 うことをいつております。逆にい
 えば本當の宗教がそこから起こつ
 たわけでありました。現在は世界
 中に先進国では学校がたくさん出
 来ました。学校が栄えて困ってい
 るということにもなりますし、本
 當の教育が起こるといふ意味でチ

は独立大学院という考え方をとり
 ます。
 イギリスのエリック・アシュビ
 ーは、中世の終りに教会がたくさ
 ん建て、これで宗教は大丈夫だ
 と思つた時、宗教は滅びたとい
 うことをいつております。逆にい
 えば本當の宗教がそこから起こつ
 たわけでありました。現在は世界
 中に先進国では学校がたくさん出
 来ました。学校が栄えて困ってい
 るということにもなりますし、本
 當の教育が起こるといふ意味でチ

は独立大学院という考え方をとり
 ます。
 イギリスのエリック・アシュビ
 ーは、中世の終りに教会がたくさ
 ん建て、これで宗教は大丈夫だ
 と思つた時、宗教は滅びたとい
 うことをいつております。逆にい
 えば本當の宗教がそこから起こつ
 たわけでありました。現在は世界
 中に先進国では学校がたくさん出
 来ました。学校が栄えて困ってい
 るということにもなりますし、本
 當の教育が起こるといふ意味でチ

は独立大学院という考え方をとり
 ます。
 イギリスのエリック・アシュビ
 ーは、中世の終りに教会がたくさ
 ん建て、これで宗教は大丈夫だ
 と思つた時、宗教は滅びたとい
 うことをいつております。逆にい
 えば本當の宗教がそこから起こつ
 たわけでありました。現在は世界
 中に先進国では学校がたくさん出
 来ました。学校が栄えて困ってい
 るということにもなりますし、本
 當の教育が起こるといふ意味でチ

(大学院セミナー館落成記念講演より。
 文責編集者)

◆大学院セミナー館落成 ◆民家・遠来荘移築復元完成

永井文相を迎えて祝う

昭和50年6月27日(金)

梅雨の合間をぬって晴天に恵まれた6月27日、二つの建物の披露パーティが約二百人のお客様を迎えて行われた。

大学院セミナー館と遠来荘は、それぞれ既報のとおり昨年9月3日に地鎮祭を行い、工事をすすめていたもので、二つの特色ある建物が開館十周年に当たる本年、新たにキャンパスに加えられることとなった。

別記プログラムに示すように、二つの建物の間を自由に散策しながら初夏の午後を過ごしていただく。

これらの方々には、一目でVIPとわかるように明かるいオレンジとブルーのポピーの造花を胸につけていただいた。

大学院セミナー館では食堂心づくしのサンドイッチと飲物が供され、なごやかな交歓風景があちこちに見られた。一方、遠来荘では表千家の矢内宗紫先生とお弟子さん六名がお点前を披露され、民家のかもしだす静寂さと温さをお客様に存分に味わっていただいた。

国会の会期中でご出席が懸念されていた永井文相大臣は、予定の時刻より早目に到着され、大学院セミナー館のお祝いパーティから姿をお見せ下さったことは大変ラッキーなことであった。このあと、正田理事長の案内で遠来荘にも向かわれ、お茶を楽しまれた。大臣就任後はじめてこの丘に足を運ばれたことになる。

式典は講堂において早稲田大学大学院学生小山敏博君のピアノ演奏で開始された。まず飯田館長が立って、開館十年の歩みの中でご縁の生じた方々のうち、ご健在でお顔を見せて下さった前記の来賓の方々を紹介し、当ハウスには身分の上下もなく、先生も学生も平等であるけれども、この丘の上では最も敬まられるべきは年配の方々であるということにしたいので、本日は最前列にVIPの方々にお坐りいただいた、と述べた。

ついで正田理事長により新築・移築工事の経過報告が行われ、設計担当者、U研究室三宅豊彦氏、同施工担当者、榎清水建設常務中山喬氏、遠来荘寄付者、小泉勇二氏、同復元工事担当者、榎田中木工、田中昌夫氏にそれぞれ感謝状が贈られた。

つづいて記念講演が東洋大学教授大川信明氏の司会で当ハウスの最大の縁故者であるお二人によって行われた。最初に永井文相大臣が「今後の大学院教育について」と題して、日頃の抱負を語られた。(講演要旨は1頁参照。なお、第12回大学教員懇談会のゲスト講演をも兼ねているので、6頁の記事も併せて参照されたい。) つぎに、この5月に中国を視察

して帰国された茅誠司先生が、大学院であり科学者である先生の目にとらえられた新しい中国の印象を、以前に見聞しておられた古い中国と比較しながら語られ、聴衆に深い感銘を与えた。

こうして予定のプログラムは無事終了し、六時過ぎ、楽しかった半日の集いの幕を閉じた。

【主なる来賓(敬称略)】

永井道雄、中村哲、沼田稲次郎、今井義夫、色川大吉、飯島健一、内山尚三、江沢洋、江上辰男、小田切松義、岡本栄一、笠原正成、小山五郎、Z・サイナー、酒瀬川康夫、榊原繁雄、島田誠夫、J・L・スチュアート夫妻、神保タミ子、世良正利、高橋忠次郎、田内幸一、都留春夫、中山喬、中村哲也、長里静子、中山秀太郎、中村英雄、中尾由矩子、成瀬治、平山輝男、肥後成喜、平松幸一、福井重雅、布施瀧雄、細田友雄、松本剛、黛弘道、松崎義徳、松崎三三、水野正夫、三和治、望月藤三、吉阪隆正、栗林恒雄、鮎川宗仁、桐生富久、絹川正吉、北野美枝子、小林道夫、小俣喜久治、伊藤勝造、伊藤義一、大室英雄

▼プログラム▲

15時 お祝いパーティ
お茶席
16時~16時半 式典

大学院セミナー館
遠来荘茶室
講堂

ピアノ演奏
早大大学院学生 小山敏博
あいさつ 館長 飯田宗一郎
経過報告・感謝状贈呈
理事長 正田建次郎

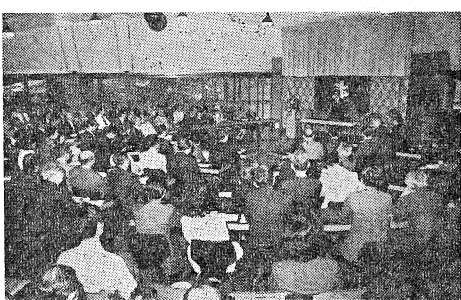
16時半~17時半
記念講演
(司会) 講堂

東洋大学教授 大川 信明
「今後の大学院教育について」
文部大臣 永井 道雄
「新しい中国を視察して」
日本学術振興会会長

★大学院セミナー館——設計——
U研究室、施工——清水建設、庭園——村越造園、給排水工事——昭和温調、電気工事——関東電気工事

★遠来荘——寄付者——小泉勇二氏、施工——田中木工、命名者——山内恭彦博士、造園——当館施設職員

茅 誠司



落成式——正面は記念講演の永井文相大臣



にぎやかなお祝いパーティ——大学院セミナー館で

第30回理事会

第19回評議員会

- ① 昭和49年度事業報告、決算報告
- ② 昭和50年度事業計画、収支予算
- ③ 理事・監事・評議員の選出

昭和50年6月6日

銀行クラブ

【評議員】

一橋大学名誉教授 板垣 與一
 東京外語大名誉教授 小川 芳男

●聖心女子大学を

会員校に迎う

相良惟一学長の挨拶に拍手

聖心女子大学は、当法人創立当初から会員校として協力されることを望んでいたが、時が熟し、5月12日付で入会の申込みがあり、理事会は全員一致でその入会を受け入れた。これで有力な女子大学は全部会員校になったわけである。なお会員校は合計四三大学となった。

【出席者】

理事 正田建次郎、飯田宗一郎、上代たの、茅誠司、中村哲、佐藤朔、天城勲、中川富弥、戸田修三

【理事】 一橋大学長 小泉 明
 東京医科歯科大学長 勝木 保次
 東京農工大学長 福田満洲雄
 上智大学長 ヨゼフ・ピタウ
 東洋大学長 磯村 英一
 【監事】 東京学芸大学長 太田 善磨

評議員会総括報告

理事長 正田建次郎

評議員(理事、監事は評議員を兼ねるので、重複をさげ、ここには評議員だけを記す) 森戸辰男、白井常、川原栄峰、鈴木貞、三宅彰、大山信郎、坂木是忠、ヨゼフ・ピタウ、内藤善三郎代理、相良惟一、瀬川美能留代理

別記の決算と予算を可決承認した。理事長は別記のごとき総括的説明を行い、館長が議案の詳細について説明を加え、ことに年報には事業内容が詳しく記載してあるので、説明を助けた。

学長の中には交替期で辞任された方もあり、そのため当法人の理事を辞任されたり、監事を辞任されたりしたので、左記のとおり後任者が選任された。それぞれ当法人の理解者として後援者として関係の深い方々であり、その就任を歓迎したい。

昭和49年度の事業報告と決算報告および同50年度事業計画と予算をご審議いただくに当たり、総括的なご報告をいたします。ことに今回初めてですが立派な昭和49年度年報をつくりましたので、詳細はその年報にゆずることになります。このような年報を出したのも本年度の事業報告の一つであります。

法人の運営面では理事長もしくは理事として貢献された石館守三、増田四郎、加藤六美、山内恭彦の四氏を顧問に推挙し、創立以来の専務理事飯田宗一郎氏を館長に嘱任し、ここに専任館長の実現をみたわけです。

の免税許可をうけましたが、経済界の不況下、実際の活動は次年度になるものと思われませんが、目下は財界人と交渉し募金委員会の組織づくりをしている状態です。

特記すべきことは、悲しい一方で

最大の功労者佐藤喜一郎氏のご逝去をいたみ、追憶記念会を催して生前をしのびましたが、喜ばしい方では、創立十年史「大学を開く」を公刊し、創立にかかわる貴重な資料を世に送りました。

次に決算では、異状な物価高と人件費のベース・アップによる支出増のため、約一千万円の赤字となりました。この点については理事会も苦心したところですが、当法人のごとき財団の経営が最も難しい時代であることを痛感します。

予算では、会員校の会費を据置き、また利用者の便宜を考え、料金値上げはせず、ただ利用料金の10%を協礼金として加算する方法を講じます。他方では利用者の増加につとめ、その方からの収入の増加を考えました。このようにして利用率を昨年の四九%から五二%を目標にしました。

増収分は物価高による物件費の増加と職員給与を定昇含み一一・八%の引上げ分に充当することにしました。

◆寄贈図書

昭和50年1~3月

- 「生活者の革新のために」 生活者のための企業再生」 「税金革命」 名東孝二殿
- 「離陸の発想」 金山宣夫殿
- 「人間生物学」 福田一郎殿
- 「聖徳太子論」 「聖徳太子の理論と実践」 望月一憲殿
- 「早大システム科学研究所報」 28 同研究所殿
- 「八王子市谷地川流域における考古学的調査」 八王子市教育委員会殿
- 「応用力学の漫歩」 5冊 鬼頭史城殿
- 「国際交流」 4 国際交流基金殿
- 「社会学論叢」 62 笠原正成殿
- 「会報」 27 アメリカ研究振興会殿
- 「ファウスト」 第二部上・下巻 手塚富雄殿
- 「思想の冒険」 鶴見和子殿
- 「人間その価値と存在」 三枝充恵殿
- 「真実なる対話を求めて」 佐古純一郎殿
- 「記者遍路」 森 恭三殿
- 「世界の宗教」 3 淡交社殿
- 「ヨーロッパとの対話」 木村尚三郎殿
- 「もう一つの発想」 芳山邦弘殿
- 「大学を開く」 2冊 大学セミナー・ハウス殿

▼千人会▲入会のお誘いについて▲

通算一、〇〇〇人に達す

7月27日ゴールイン!

(実数にして九七七人)

昭和42年7月から出発した千人会は八年にして、文字通り一千人の会員に達しました。「随分長いことかかりましたね」とある人はいうのである。しかし、一千人という後援者は当ハウスにとって貴重な財産です。当ハウスの存在価値を公けに承認して下さった証人だからです。

ところで当法人の財政的基盤をつくらなければなりません、会員校をまず法人組織の基盤としているのですが、このハウスの特色は社会と大学との連帯の下に教育活動が行われることにあるので、社会人と大学からの浄財が運営資金として与えられる必要があります。千人会は個人の善意の寄付を期待して生まれました。

経営の前途を考えると千人会員の人数は多い方が望ましいので、千人に達したこの機会に会員の増加運動を行います。現会員の方も新しい会員をご紹介下さるよう、また、「ご縁があつて」この丘でゼミをされた先生方やゼミの学生で既に社会人になられた方などのご入会を切に望んでいます。

◆現在会員は一、〇二三名です

大学人 二七九二名
社会人 二二二一名
(50年8月末現在)

◇新しく会員となられた方々

〔第28回報告(申込順)〕

- B 広島大学教授 西川恭治殿
- B 大東文化大学助教授 鈴木順子殿
- B 広島大学大学教育センター 喜多村和之殿
- C 東京家政大学助教授 樋口英俊殿
- B 工学院大教授 波多江健郎殿
- B 東京都立商科短期大学教授 木村康雄殿
- A 千葉県立東総工業高校教諭 増田武男殿
- B 大学セミナー・ハウス職員 田島賢一殿

昭和49年度千人会収支決算書

収入の部		支出の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
会費	3,687,790	事務費	289,330
銀行利息	292,991	印刷費	269,265
前年度繰越金	8,629,551	通信手数料	32,795
		創立十年史刊行補助金	1,000,000
		土砂崩復旧工事補助金	10,500,000
		翌年度繰越金	518,972
合計	12,610,332	合計	12,610,332

- C 東京医科大学歯科大学学生課長 嶺哲之助殿
- C 東京医科大学歯科大学学生掛長 栗林恒雄殿
- C 東京大学助教授 渡辺昭夫殿
- C 東洋大学教授 井出 翕殿
- C 駒沢大学教授 三神 勲殿
- C 武蔵大学助教授 一乘信雄殿
- C 学習院大学参事 原島幸太郎殿
- C 茶道・花道教授 矢内喜久子殿
- C 東京都立大学助教授 堀川浩甫殿
- C 早稲田大学教授 森田豊夫殿
- C 元セミナー・ハウス職員 鳥谷部清忠殿

昭和49年度経常部収支決算

収入	支出
科目	科目
財産収入 835,864	人件費 50,008,130
寄付金収入 189,510	事務費 4,956,150
会費収入 22,600,000	法人諸費 1,114,838
事業収入 50,725,085	土地建物費 8,925,105
補助金収入 9,440,000	事業費 35,732,411
文部省補助金 8,740,000	一般事業費 6,946,098
日本万博記念協会 700,000	学生指導セミナー費 9,654,243
セミナー会費収入 3,417,300	普通セミナー費 17,509,410
雑収入 1,749,612	国際学生セミナー費 1,662,660
千人会より繰入 1,000,000	小計 100,736,634
	差引収入 △10,779,263
合計 89,957,371	合計 89,957,371

昭和50年度経常部収支予算

収入	支出
科目	科目
財産収入 1,010,000	人件費 59,680,000
寄付金収入 880,000	事務費 4,860,000
会費収入 23,200,000	法人諸費 1,950,000
事業収入 63,690,000	土地建物費 7,990,000
補助金収入 10,600,000	事業費 33,740,000
セミナー会費収入 4,310,000	一般事業費 4,340,000
雑収入 1,810,000	学生指導セミナー費 11,570,000
千人会より補助 3,500,000	普通セミナー費 17,830,000
	前年度収入不足充当金 780,000
合計 109,000,000	合計 109,000,000

B 茶道・花道教授 鮎川宗藤殿
 B 明治大学教授 大岡 信殿
 B 東京医科歯科大学教授

C 東京Y M C A 国領センター
 C 津田塾大学図書館勤務

C 日本書籍編集部 杉浦 明殿
 C 日本女子大教授 源 了圓殿

B 清水建設作業所長 平松幸一殿
 A U研究室監査役 松崎義典殿

C 警視庁少年課ケースワーカー 伊藤秀夫殿
 終身 日本歯学センター 江幡玲子殿

終身 日本歯学センター 田北敏行殿
 終身 日本歯学センター 寺川国秀殿

C 早稲田大助教 西川 潤殿
 C 上智大助教 大河内繁男殿

B 東京都立大学助教 倉沢 進殿
 C 昭和大学講師 喜多村得也殿

C 聖心女子大学助教 竹村研一殿
 B 東京大学教授 関口 忠殿

A 東京シユーズ会長 小俣喜久治殿
 C 東京第一バプテスト教会 岡村文字殿

C 東京工業大学助教 原 芳男殿

◇会費ありがとうございます
 昭和50年4〜8月
 (敬称略)

久保田浩、松山正男、新見宏、小原清成、小泉一郎、宮崎厚一、坂井正広、馬越徹、河島英昭、金子六郎、笹森健、安井郁、加藤寛、村上正夫、永井道雄、都留春夫、染谷恭次郎、西村章子、大塚博、桐生富久、細谷千博、石井千尋、佐古純一郎、福田一郎、原口隆英、江洲浩美、塩田庄兵衛、井上百合子、阿久津喜弘、高峯一愚、中村正久、鐘ヶ江信光、井上宇市、矢野洋四郎、池宮英才、山内二郎、野々口格三、大河内正陽、館逸雄、石渡毅、横山定雄、樋口美智恵、小泉文夫、若林玄修、木村尚三郎、松野賢吾、大原洋司、小川仁、早坂泰次郎、大槻盛一、佐藤和男、竹田政民、石原忠男、長里静子、村田全、村瀬興雄、豊島広司、芳山邦弘、土田貞夫、田辺留次郎、一柳富夫、山口俊夫、村山喜代治、磯村英一、山田一郎、村山松雄、羽田三郎、谷口茂、伊倉退蔵、工藤康雄、菅野晴、斎藤忠利、原治、竹内昭夫、柴田菊代、千野熊男、川口弘、馬場孝悦、玉真秀雄、林卓夫、井早康正、大村晴雄、阪本泉、天城勲、後藤捨男、高柳暁、中村孝俊、柏原啓一、山下肇、奥山典生、高橋忠次郎、浅井義博、鈴木正紀、竹村猛、川名明、榎山欽四郎、野見山不二、栗田見端、奥野忠一、荒井基、大野泰雄、石川孝夫、鈴木二郎、加藤一郎、岡

本栄一、今井義夫、中村英雄、川添奈津子、吉利喜美、荒井猷、狩野紀昭、岩崎英二郎、芹沢栄、関根隆光、児玉昭太郎、木原太郎、野間三郎、中川作一、赤根也、長岩寛、鳥居照男、福山直美、古西信夫、岡田已代次、手塚一郎、芳賀徹、橋本次郎、大畑篤四郎、徳永勇雄、木村康雄、小池勇二郎、鈴木順子、椿弘次、喜多村和之、芳野赴夫、山崎誠一、太田正孝、田島賢一、斎藤恵彦、嶺哲之助、栗林恒雄、小竹豊治、渡辺昭夫、井出翁、北野美枝子、大倉謙二、松井源吾、近藤正夫、徳末愛子、道喜美代、塚本寿一、和歌森太郎、藤井耕一、秀村欣二、名東孝二、青木郁郎、二宮永蔵、太田秀通、吉田幸弘、長谷川幸男、田中忠治、川田侃、柴田恭二、前田護郎、大原栄一、竹内喜夫、市井三郎、白沢富一郎、松尾浩也、藤野登、江沢洋、古畑和孝、沢崎守孝、小島守主、篠原泰三、川島順平、芝川栄三、山本襄治、黒田成俊、石川信男、土方保、岩橋宣隆、岡田正弘、佐竹寛、滋賀秀三、中村幸安、佐藤進、荒川有史、古賀正則、内田市五郎、鶴見和子、長清子、代タノ、源了圓、井上孝、鮎川宗藤、土田美芳、三神勲、一榮信雄、藤原鎮男、杉浦明、十代田知三、鳥谷部清志、矢内喜久子、岡宏子、林俊一、原島幸太郎、石川馨、桑山真知子、三橋文雄、高島善哉、黒田道雄、三宅彰、古川晴風、中村啓也、荒井良雄、川田雄一、安

藤良雄、朱牟田夏雄、吉松藤子、辻達也、内山尚三、田島恵児、鳥海俊宏、坂田道大、藤平重雄、佐藤弦、千住鎮雄、中村浩三、永井裕、古本捷治、田中未来、三和治和田義信、浅川淳、平出彦仁、三輪公忠、藤沢義男、西川治、佐藤誠三郎、厚原偉介、片岡清子、笠松章、中山昌、中川一郎、西村敏男、谷清、柏木恵子、金丸重鎮、小池滋、松島恵、築田長世、尾崎茂、山本尚志、梅沢豊、村瀬興雄、米地実、坂本清、福田敏一、山口重克、江幡玲子、松崎義徳、倉沢進、伊藤秀夫、金山宣夫、渡

辺信夫、喜多村得也、藤岡通夫、野田一夫、高村象平、奥村敏恵、栃原敏房、山西貞、田村恭、松原治郎、山本武彦、竹下敬次、花島重春、松村信治郎、太田善啓、市川博、色川大吉、白浜謙一、望月一憲、田中庄蔵、品川孝次、早川和男、藤井隆、總山孝雄、原誠、鈴木成文、黒田孝郎、森川芳彦、浅井那二、児玉久雄、石川淳志、関田寛雄、村松映、中川重雄、山本芳夫、原田行男、中島文夫、菊地百合、鈴木修次、出居茂、藤田淑子、片山清一、福山仙樹、大河

内繁男

●大学院セミナー館落成
 遠来荘移築記念募金

—— 映写機購入のために ——
 目標額七〇万円のところ
 現在 (八月末)

三万五千四百〇円です
 ◇ご支援を感謝して拝受いたしました。

緒方貞子殿 三,〇〇〇円
 宇野重昭殿 一,〇〇〇円
 落成式参加者殿 一五,九三〇円
 三,四〇〇円

第12回大教員懇談会殿 三,〇〇〇円
 婦人国際平和自由連盟 三,〇〇〇円
 日本支部 南美枝子殿 三,〇〇〇円
 富田しま殿 一〇,〇〇〇円
 荒川啓生殿 二,〇〇〇円
 石井栄治殿 一四,〇〇〇円
 第78回共同セミナー殿 五,〇〇〇円
 工学院大学殿 一〇,〇〇〇円
 小泉勇二殿 三,〇〇〇円

東京医科歯科大学 栗林恒雄殿 三,〇〇〇円
 フレンズ児童センター 桐生富久殿 三,〇〇〇円
 元セミナー・ハウス 職員 豊島広司殿 三,〇〇〇円
 大原英雄殿 柴田菊代殿 三,〇〇〇円
 大室英雄殿 大原洋司殿 三,〇〇〇円
 国立教会聖歌隊殿 三,〇〇〇円
 セミナー・ハウス職員殿 三,〇〇〇円
 茨城県 飯田一郎殿 二,〇〇〇円
 高橋敏雄殿 三,〇〇〇円
 第27回日米学生会会議殿 三,〇〇〇円
 参画協会殿 一〇,〇〇〇円
 松村康平殿 一〇,〇〇〇円

関口 実殿 三,〇〇〇円
 伊藤勝造殿 三,〇〇〇円
 伊藤義一殿 三,〇〇〇円

東京医科歯科大学 栗林恒雄殿 三,〇〇〇円
 フレンズ児童センター 桐生富久殿 三,〇〇〇円
 元セミナー・ハウス 職員 豊島広司殿 三,〇〇〇円
 大原英雄殿 柴田菊代殿 三,〇〇〇円
 大室英雄殿 大原洋司殿 三,〇〇〇円
 国立教会聖歌隊殿 三,〇〇〇円
 セミナー・ハウス職員殿 三,〇〇〇円
 茨城県 飯田一郎殿 二,〇〇〇円
 高橋敏雄殿 三,〇〇〇円
 第27回日米学生会会議殿 三,〇〇〇円
 参画協会殿 一〇,〇〇〇円
 松村康平殿 一〇,〇〇〇円

東京医科歯科大学 栗林恒雄殿 三,〇〇〇円
 フレンズ児童センター 桐生富久殿 三,〇〇〇円
 元セミナー・ハウス 職員 豊島広司殿 三,〇〇〇円
 大原英雄殿 柴田菊代殿 三,〇〇〇円
 大室英雄殿 大原洋司殿 三,〇〇〇円
 国立教会聖歌隊殿 三,〇〇〇円
 セミナー・ハウス職員殿 三,〇〇〇円
 茨城県 飯田一郎殿 二,〇〇〇円
 高橋敏雄殿 三,〇〇〇円
 第27回日米学生会会議殿 三,〇〇〇円
 参画協会殿 一〇,〇〇〇円
 松村康平殿 一〇,〇〇〇円

東京医科歯科大学 栗林恒雄殿 三,〇〇〇円
 フレンズ児童センター 桐生富久殿 三,〇〇〇円
 元セミナー・ハウス 職員 豊島広司殿 三,〇〇〇円
 大原英雄殿 柴田菊代殿 三,〇〇〇円
 大室英雄殿 大原洋司殿 三,〇〇〇円
 国立教会聖歌隊殿 三,〇〇〇円
 セミナー・ハウス職員殿 三,〇〇〇円
 茨城県 飯田一郎殿 二,〇〇〇円
 高橋敏雄殿 三,〇〇〇円
 第27回日米学生会会議殿 三,〇〇〇円
 参画協会殿 一〇,〇〇〇円
 松村康平殿 一〇,〇〇〇円

東京医科歯科大学 栗林恒雄殿 三,〇〇〇円
 フレンズ児童センター 桐生富久殿 三,〇〇〇円
 元セミナー・ハウス 職員 豊島広司殿 三,〇〇〇円
 大原英雄殿 柴田菊代殿 三,〇〇〇円
 大室英雄殿 大原洋司殿 三,〇〇〇円
 国立教会聖歌隊殿 三,〇〇〇円
 セミナー・ハウス職員殿 三,〇〇〇円
 茨城県 飯田一郎殿 二,〇〇〇円
 高橋敏雄殿 三,〇〇〇円
 第27回日米学生会会議殿 三,〇〇〇円
 参画協会殿 一〇,〇〇〇円
 松村康平殿 一〇,〇〇〇円

東京医科歯科大学 栗林恒雄殿 三,〇〇〇円
 フレンズ児童センター 桐生富久殿 三,〇〇〇円
 元セミナー・ハウス 職員 豊島広司殿 三,〇〇〇円
 大原英雄殿 柴田菊代殿 三,〇〇〇円
 大室英雄殿 大原洋司殿 三,〇〇〇円
 国立教会聖歌隊殿 三,〇〇〇円
 セミナー・ハウス職員殿 三,〇〇〇円
 茨城県 飯田一郎殿 二,〇〇〇円
 高橋敏雄殿 三,〇〇〇円
 第27回日米学生会会議殿 三,〇〇〇円
 参画協会殿 一〇,〇〇〇円
 松村康平殿 一〇,〇〇〇円

第12回大学教員懇談会

主題—今後の大学院教育のあり方について

期日—昭和50年6月27、28日

大学院セミナー館落成と共に

《シンポジウムⅠ》

東京大学教授 伊藤正己氏

東京大学教授 久保亮五氏

《シンポジウムⅡ》

早稲田大学教授 並木美喜雄氏

東京農工大学教授 川村 亮氏

東京工業大学教授 慶伊富長氏

筑波大学教授 井門富二氏

《参加者》(78名)

東京農工大、東京理科大(各6)、

東大(5)、東工大、電通大、専修

大(各4)、東京教育大、中大、早

大、ICU(各3)、東外大、学習

院大、武蔵大、順天堂大、東女大、

東経大、日大、法大、明大、立大

(各2)、東京医歯大、北大、広島

大、筑波大、上智大、慶大、成蹊

大、武蔵工大、津田塾大(各1)、

文部省(3)、国立教育研究所(1)

◇◇

今回の主題は大学院セミナー館の落成を記念して選んだものであるが、タイミングとしても好評であった。

昨年来、大学院設置基準の新設、文相の諮問機関である大学院問題懇談会の発足など、大学院の整備充実に深くかわる動きが次々と出ており、今や大学院問題は大学改革の次の課題に登場したもといえる。

当懇談会では二つのシンポジウムを配し、まず始めに大学院の理念をめぐって、文科系の研究者の立場から東京大学教授伊藤正己氏に、理科系の研究者の立場から東京大学教授久保亮五氏にそれぞれご発題をいただいた。

伊藤教授は、日本の大学院の持つべき役割として、①社会のリダーの養成、②高等教育の教官の養成、③学問研究の高度化への対応、④学際領域の発展への対応、⑤多様化する社会的要請への対応、⑥社会人の再教育、をあげ、現在の大学院が抱えている問題を以上の六点にそって指摘された。

一方、久保教授は研究者養成という観点に立って、大学院学生との従来の内弟的な関係と教育制度としての大学院との矛盾、研究規模の拡大による基礎科学の基盤の変化に対応することへの目目を奪われていると真に独創性を持つ研究者が育たなくなることなど、大きな問題を投げかけられた。

翌日のシンポジウムⅡでは、まず早稲田大学教授並木美喜雄氏が、今回の大学院制度再検討の動きの中で私は学則改正オンリーであるのに対して、国立大は新構想将来計画が主になっているとい

う両者の傾向の差を指摘され、これは、大学大衆化の中で高等普通教育を私大が担い、高等専門教育の学術研究は国立大が担うというふうな両者の役割分担を示すものではないかという論点を、財政基盤のない私大に対する国家的援助の確立を訴えた。つづいて東京農工大学教授川村亮氏は、専門化した博士課程のレベルを講座という幅広いワクの中で論文の指導や審査を行っている現在の制度上の矛盾を解決し、大学院を持たない大学の教員が大学院の教育・研究に参加する道を開くため、国公私立を問わず教員の専門を一定の人材銀行的なセンターに登録するとい

う連合大学院の構想を発表され、すでに進められている関東周辺地区の農水産系国立大学による連合大学院の例を詳しく説明された。

一方、新しい大学院設置基準のもとに修士と博士を分離独立させた学際型大学院の最初の実例として、東京工業大学大学院総合理工学研究科が同大教授慶伊富長氏によって、筑波大学修士課程(地域研究研究科)が同大教授井門富二氏によって詳しく説明・報告された。前者は学部から完全に独立した研究中心の組織であり、後者は高度の専門的職業人の養成を目的としたアメリカ的なプロフェッショナル・スクールの一つである。

ことに世論の注目を集めた筑波大学の場合は、マスコミの報道で一般に知られていることの裏にある、運用に際する法解釈や旧態依然たる意識に対する関係者の地道な努力、改革への熱情などがうかがわれた。

以上の発題をめぐって参加者の間で終始活発な質疑応答が行われ、今後も息の長い議論を要する

第76回大学共同セミナー

主題—実存思想とは何か

—生きることの原点をもとめて—

期日—昭和50年5月24、26日

《全体講義》

実存思想の成立と展開

お茶の水女子大学名誉教授 藤田健治氏

実存思想の可能性

東京都立大学教授 吉沢伝三郎氏

《ゲスト講演》

エイトスについて

東京医科歯科大学教授 竹下敬次氏

《セクション演習》

A 実存と神の問題

東洋大学教授 泉 治典氏

B ニヒリズムの問題

東京大学助手 平木幸二郎氏

C 哲学と科学—ヤスパースでの哲学と科学

電気通信大学教授 林田新二氏

D ヒューマニズムの超克

成蹊大学教授 上妻 精氏

E 歴史における人間の主体性

慶応義塾大助教授 池上明哉氏

F 身体性の問題

大学院問題にアプローチするため一つの足がかりとなったことは非常に意義のあることであった。(詳細は懇談会記録として、当企画室より発行されているので参照されたい。一部五百円)

G 文学と実存 茨城大学助教授 片山洋之介氏 東洋大学教授 久野 昭氏

《運営委員長》

早稲田大学教授 川原栄峰氏

《参加学生》136名(内女子53名)

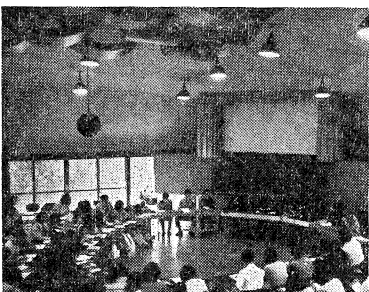
早大(25)、一橋大(9)、東大(7)

成蹊大、津田塾大(各8)、慶大(7)

東工大(6)、東京女大、東洋大(各5)、東教大、東京外大(各4)、青

学大、立大、日大、上智大(各3)、

都立大、中大、明学大、学習院大、



盛り上がるシンポジウム—講堂

聖心女大、和光大、立正大(各2)、東京学芸大、東京農工大、電通大、お茶の水女大、日女大、明大、法大、ICU、武蔵大、東経大、専修大、大妻女大、千葉大、横浜市大、大阪市大、都留文科大、独協大、玉川大、国学院大、関東学院大、立正女大(各1)、合計43大学

▽△

このセミナーは、特に実存主義協会の協力により開催されたもので、意欲的に企画に当たられた川原、上妻両先生をはじめ、すべて同協会に連なる諸先生の積極的な参画によって実現したものである。

実存思想をテーマにした同種のセミナーは、昭和42年から46年にかけて数回開催しているが、当時の大学紛争、折りからの思想ブームを背景に、いずれも大きな反響

をよんでいる。数年を経た今日、同様の企画に学生がどのような応答をするか、学生の関心の所在を示すものとして注目されたが、今回もまた定員をはるかに越える熱心な申込みが殺到し、依然として哲学思想に対する学生の根強い関心があることがわかった。

今後このような哲学セミナーでは知識を得ることと合わせて、「ひとりひとりの生き方の問題」との関連においてより深い対話や討論を試みたいと述べており、価値観の錯綜した現代に、自らの立つ新しい拠り所と生きることの意味を真剣に求めて努力する多くの若い人達が存在することを改めて知らされたセミナーであった。

第77回大学共同セミナー

主題——一九三〇年代をめぐる国際環境

期日——昭和50年6月20～22日

セクション演習

I A 日本の外交政策決定過程

津田塾大学教授 馬場伸也氏

I B 一九三〇年代の日本の思想と文化

慶応義塾大学教授 池井 優氏

同志社大学アメリカ研究所 研究員 野林 健氏

II A 中国

成蹊大学教授 宇野重昭氏

(運営委員)

II B 日米関係

上智大学教授 三輪公忠氏

東京大学助教授 渡辺昭夫氏

II C 独・伊

成蹊大学教授 村瀬興雄氏

II D 英・仏

一橋大学教授 細谷千博氏

(運営委員)

一橋大学博士課程 南 義清氏

(特定のセクションに所属しない)

で指導)

国際基督教大学教授 緒方貞子氏
(セクション演習補佐)
慶応義塾大学博士課程 増田 弘氏

成蹊大学修士課程 滝口太郎氏
津田塾大修士課程 植田隆子氏
上智大学修士課程 細谷正宏氏
慶応義塾大学修士課程 井上勇一氏

△参加学生 97名(内女子30名)
慶大(29)、成蹊大(21)、明大(18)、津田塾大(13)、一橋大(8)、聖心女大(6)、ICU、上智大(各1) 合計8大学

別記の八大学の国際関係ゼミが日頃の学習の成果を持ち寄って行ってきた合同セミナーも今年で三

「開かれた大学」への実践

成蹊大学法学部4年 別枝 行夫

「開かれた大学」を口にすることは簡単なことだ——それが理念に留まるものなら……。しかし、今求められているのは、理念を裏打ちできる行動ではないのか？ 私は「八大学共同セミナー」実行委員の一員として運営の一端を担い、殊にその感を強くした。実行委員の席で日程の点で早くも各大学の学年暦の制約から参加不能校が生まれたのだ。むろん、これは本質的問題ではなかったが、セミナー当日の学生の動向の中に、嫌な言葉だが(大学)セクションリズムが感じられたのである。何かとい

回目を迎えた。このセミナーを発意・提唱された宇野、細谷、池井、三輪の各先生は今回も指導に当たられ、第一回で学生として参加した井上勇一君(慶大卒)が講師陣に加わるなど、連続しているセミナーの変わらない交流と連帯、そして成長がうかがわれた。

また事前の学習会からセミナーの開催、そして総括・反省から次年度への引き継ぎに至るまで、各大学から出ている実行委員会を中心とする学生の自主的な運営も、今後に検討すべき問題点を若干残してはいるが、これまでの経験を踏まえて着実に軌道に乗っていくようであった。

個々人の価値観に問題の根は存するように思う。日本人は、人に「何のお仕事？」とは問わない。「何処の会社？」とたずねる。同様に「何の勉強をしますか？」のかわりに「何大学？」と聞くのだ。個人への評価に先立って、まずその所属グループが問われるのである。(こんなふうに「日本人は……」と概括的に語ってしまうこと自体、既に日本人の属性に私が陥っている証拠であるのだ！)

事の責任を制度とか体制に帰して(そこまでの分析は間違いないとしても)それで終わりというやり方はもうやめよう。非難している体制がどんなものであっても、それをかえていけるのも、また私達なのだ。私達は上半身で批判をうたいつつ、下半身はそのための実践に動かそう。

「開かれた大学」のためには、まずそこへ参加してゆき、その中で私達が「〇〇大学」の学生であることから「セミナー・ハウス大学」の学生へと自らを昇華してゆくこと——この個々の学生の地道な行動の集積以外にいかなる近道もないであろう。

理念は実践を伴って初めて価値あるものとなるのだから。

「開かれた大学」を口にすることは簡単なことだ——それが理念に留まるものなら……。しかし、今求められているのは、理念を裏打ちできる行動ではないのか？ 私は「八大学共同セミナー」実行委員の一員として運営の一端を担い、殊にその感を強くした。実行委員の席で日程の点で早くも各大学の学年暦の制約から参加不能校が生まれたのだ。むろん、これは本質的問題ではなかったが、セミナー当日の学生の動向の中に、嫌な言葉だが(大学)セクションリズムが感じられたのである。何かとい

第80回 明日の世界を考える

(11月1日午後二時より記念講演が行われる予定)

第81回 今日の婦人問題

平等・発展・平和(仮題)

10月31日～11月2日

11月21～23日

第78回大学共同セミナー

主題—藝術のたのしみ(第2回)

—音楽・歌劇・演劇、その歴史・鑑賞・実際—

期日—昭和50年7月11・13日

〈全体講義〉

I 演劇「夕鶴」・歌劇「夕鶴」

—上演録音の比較による演劇の言葉と音楽化された言葉—

舞台美術家・多摩芸術学園講師

本宮昭五郎氏

II 舞台芸術とコミュニケーション

演出家(現代演劇協会)・早稲

田大学講師

荒川哲生氏

〈セクション演習〉

A 研究・同時代の演劇

早稲田大学講師

西村博子氏

B 古典と現代・東と西—戯曲の構造—

慶応義塾大助教授

宮下啓三氏

(運営委員長)

C I 演出の実際—時代と演劇—

演出家(劇団民芸)

丹羽文夫氏

C II 演技するたのしみ

荒川哲生氏

演出家(現代演劇協会)

宮田勝房氏

D オペラを考える

慶応義塾大助教授

荒井秀直氏

E さまざまな音楽を知る—柔軟な音楽観を作るために—

お茶の水女子大学助教授

徳丸吉彦氏

〈参加学生〉119名(内女子67名)

東大、早大(各15)、東京女大(9)

東京学芸大、お茶の水女大、日

大、明学大(各5)、一橋大、立大、

ICU(各4)、東京外大、慶大、

成蹊大、学習院大、聖心女大(各

3)、横浜国大、上智大、東京芸

大、国学院大(各2)、東教大、

東京医歯大、電通大、都立大、日

女大、青学大、津田塾大、成城

大、都留文科大、大阪市大、創価

大、工学院大、国立音大、武蔵野

美大、清泉女大、フェリス学院

大、愛知学院大、大妻女子短大

(各1)、青山杉作俳優養成所(7)

合計38校

□□

長い間の念願がなくなって昨年夏

実現した芸術セミナーは、今回、

「音や声もしくは肉体による表現

を基本とする芸術の諸ジャンル」

を対象に企画され、別記のようなセクションが編成された。幸いなことに、前回、運営と指導に当たられた宮下先生に運営委員長としてご尽力いただくことよって、再登場下さった丹羽・西村両先生ほか、いずれもそれぞれの分野で歴史や伝統さらには理論に造詣の深い方々を講師にお招きすることができた。

二日目の夜、野外劇場で行われた「即興劇の夕べ」は、やはり今年もこの芸術セミナーの性格を象徴するものといえるだろう。短時間のうちに、全く自発的に用意された合唱、群舞、寸劇等の各セクションの出し物は、いずれも若々しい創造のエネルギの躍動であ

八王子の森のすてきな学生たち

早稲田大学講師 西村博子

第一日目の公式のスケジュールを全部終えてから、再びセミナー室に戻ってみると、学生たちは四つのグループに分かれて、それぞれダンスの創作と練習に熱中している。これはどうかと踊ってみせたいいくつかのアイデアのうち、みんなでもいいと決めたものを採用してみるといった学生が大半だったが、尻ごみするものなど誰ひとりいない。

三〇分ほど中座して再びセミナー室に戻ると、今度は「ロミオとジュリエット」「桜姫東文章」「金

つた。また劇団民芸の若手俳優、角谷氏と長嬢による「あしたに死す」(清水邦夫作)の熱演は、静寂な夜気におおわれた野外劇場に大きな感動をよんだ。

昨年同様、雨に降りこめられて、野外劇場の使用が懸念されたが、宮下先生はじめ参加者の「今年こそは」という切実な願いに、その雨もこの催しの直前に上がった。ペンチをふいたり足場を整備したり、雨足相手に準備には手間どったが、ライトに牽が光って木の葉の緑が一段と美しかった。

この野外劇場の効果的な活用によって、今後この芸術セミナーの特色が発揮されていくことだろう。

即興劇の夕べに繰り広げられた創意に満ちた楽しい出しものの数々は、八王子での二泊三日の学生生活の象徴的な一例でしかない。セクション演習の始めに引きあいに出した格言どおり、学生たちは実によく学び、そしてよく遊んでくれた。

八王子の森で出会ったこのすてきな学生たち。それにひきかえテキストにもうひと工夫していただと、かの学生の、あの討論をもう少し引き出し発展させていたらとか、そのほか教師として足りなかった点がしきりに反省される今の私。

ともあれ昨年と今年の二度、「芸術のたのしみ」セミナーに参加できたことを、大学セミナー・ハウスの関係者の方々に、そしてあのすてきな学生のみなさん心から感謝します。



夜気に包まれて熱演する即興劇

業務通信

◇本紙前号で既報のとおり、昨年度はマイナスの利用率を記録した...

◇4月、5月は例年のごとく各大学の新生オリエンテーションを迎えました。学部もしくは学科ごとに行われるので、全館を貸切って使用されるのが特徴です。

◇恒例の盆踊り大会は7月27日、日米学生会の一行を歓迎して、今年も地元協力を仰いで開催しました。

三重の踊りの輪ができて、日本女子体育短大の学生のバチさばきも鮮やかに、炭坑節に合わせて踊る...

① 利用者は洗面道具と同じように、構内を歩くスリッパをご持参下さい。ご協力を乞う。

② 参加人数の多い新生オリエンテーションや先生方の学会、それから長期間宿泊される語学研修グループや大学のゼミナールで、来年度の予定がつかまず...

8月現在で、来年度の予約は次のとおりです。5月11日日本女子大学(家政経済学科) 新生オリエンテーション

文京女子短大新生オリエンテーション
7月11日 大学英語教育学会第14セミナー
法政大学技術連盟
日本国際医学生連盟
8月11日 日本神経放射線研究会

第9回会員校事務連絡会

相互の理解と親睦を深める

昭和50年7月4日

当日は朝から降りしきる雨のため、出席者は二〇校二六人で、予定されていた人数がかなり減少したことは大変残念であった。

プログラムは昼食会をもって開会され、つづいて新しくオープンした大学院セミナー館で協議会を行った。館長の挨拶、出席者の自己紹介、各課の報告が行われた。

今回は参加者の中に初めて当ハウスにいられた方が多かったためか、意見や注文が少なかったが、日頃、連絡業務で窓口になっておられる各会員校の担当者が実際に現地を見て認識を深めていただき、かつ会員校相互の交流・親睦の機会ともなり、双方にとって意味のあることであった。

▼会員校事務担当者名簿

- 青山学院大学(学生部厚生課) 課長 生瀬 良造
大妻女子大学(教務部学務課) 課長 新藤良太郎
お茶の水女子大学(学生部学生課) 課長 関 宗正
学習院大学(庶務部) 佐藤 善次
共立女子大学(学生部学生生活課) 課長 平岡 元長
慶応義塾大学(文書部庶務課) 課長 板垣 良助
工学院大学(総務部教務課) 部長 平川 純一
国際基督教大学(学生生活室) 学生事務課長 青木 実
順天堂大学(学生部学生課) 課長 上西 守夫
上智大学(学生部学生生活課) 係長 森田 博子
成蹊大学(大学事務部庶務課) 課長 横山 博
成城大学(学生部学生課) 課長 島野 黎行
聖心女子大学(庶務課)内野 剛裕
専修大学(学生部学生生活課) 課長 高坂 村男
千葉商科大学(庶務課) 課長 富田 嘉明
中央大学(学事部) 次長 田上 愛之
津田塾大学(学生生活課) 課長 寺出 澄子
電気通信大学(学生課)塚田八洲男
東京大学(学生部学生課) 課長補佐 宮川 清
東洋大学(学生部学生課) 課長 松野 廣
東京医科歯科大学(学生部学生課) 学生掛長 栗林 恒雄
東京学芸大学(教育指導部学生課) 課長 黒川喜八郎
東京外国語大学(教務課) 課長 山本 唯雄
東京家政大学(学生部学生課) 教務係長 山本 唯雄
東京家政学院大学(学生部教務課) 課長 下部 澄子
東京家政学院大学(学生部教務課) 課長補佐 松崎 三次
東京教育大学(学生部学生課) 課長 安武 毅
用度管理課長 佐藤 幹雄
東京工業大学(教務部教務課) 課長補佐 林 俊彦
東京慈恵会医科大学(教務部教務課) 進学課程事務長 佐藤 勝
東京女子大学(学生課) 課長 鈴木 法子
東京都立大学(工学部教務係) 係長 小尾口文雄
東京農工大学(庶務部庶務課) 課長 金子 光亨
東京理科大学(庶務課) 課長 佐藤 東明
日本大学(学生部学生課) 部長 田口 三郎
日本女子大学(学務部学事課) 課長 岸田鶴之助
法政大学(学生部厚生課) 課長 秋本 昭男
武蔵大学(学生部学生生活課) 課長 唐沢 威嗣
武蔵工業大学(学生課) 課長 川嶋 辰雄
一橋大学(庶務課) 課長 川嶋 辰雄
明治大学(教務課) 課長 八巻 滋
明治学院大学(総務部総務課) 課長 平田 興次
横濱国立大学(学生課) 学生係長 川端 啓司
立教大学(学生部学生生活課) 副部長 武田 恭
早稲田大学(学生部学生生活課) 高瀬 敏行

夏のキャンパス風景

セミナーに、研修会に

国際色も豊か

My visit to the Seminar House, along with my wife and son, has been an extremely enjoyable experience for all three of us. We especially appreciated the lovely grounds, the view from our room in the Main Building, and the friendliness and hospitality of Mr. Iida and the staff. A high point of our visit was the tea ceremony which was arranged especially for the participants in the JACET Seminar. In this short period we began to feel that the Seminar House was our home. We are sorry to have to leave, and hope that someday there will be an opportunity to return.

Wallace Chafe, Professor,
University of California, Berkeley

I have enjoyed my stay at the Inter-University Seminar House very much. It has been a great pleasure to live and work with JACET members during JACET's Ninth Summer Seminar in such comfortable facilities and beautiful surroundings.

Such an environment promotes good fellowship and group endeavors. I have also taken pleasure in walking on the many trails, enjoying the trees and shrubs. I want to thank Mr. Iida and his staff for their good contributions to our life here at Seminar House. And I want especially to express my appreciation for the tea ceremony given by members of the staff at the old farm house.

Ruth Crymes, Professor,
University of Hawaii

(チェイフ、クライムズ両教授は大学英語教育学会<JACET>夏期セミナー講師として、2週間、当ハウスに滞在された)

7、8月を迎えると、当ハウスのキャンパスは俄然国際色を増してくる。婦人国際平和自由連盟主催のアジア学生セミナーを皮切りに、大学英語教育学会夏期セミナー、山梨英和短大夏期セミナー、アジア人学生会議、IAESTE(国際学生技術研修会)、AIESEC(国際経済商学生協会)、ELEC夏期英語研修会、COLTD(語学教育振興会)など、国際会議や語学研修を目的とするグループが数多く利用されたが、これらの利用者には外国人参加者や指導者が多数含まれているからである。宿泊者が一堂に会する食堂に足を踏み入れたある日の見学者は、さながら外国の大学のようです。すねと感想を述べられた。

八年来、毎年夏になるとこの丘に姿を見せる大学英語教育学会夏期セミナーは、今年で九回を迎

え、また各年毎に日本で開催される日米学生会議は、昭和42年から当ハウスを会場としていたが、今年は二七回である。

国際的で、かつ当ハウスの常連

であるこれら二つのグループから寄せられた感想文は、八王子の丘で繰りひろげられた活動の一端と当ハウスの印象とを物語ってくれている。

セミナー・ハウスを訪れて

静岡女子短期大学 柳沢久恵

二週間の予定で開かれるJACET(大学英語教育学会)夏期セミナー参加者二三名の一人として初めて大学セミナー・ハウスの前に立ったのは7月13日でした。ふとした偶然から教育に携わるようになった事の重大さに戸惑いと不安をかくし切れない社会人一年生としての自分。すでに動かすことのできないものとして、教室には三十数名の学生がいます。この真剣なまなざしにどう応えてゆけばよいのだろうか。応える術もなく、無力を恥じながら教育の原点に立ち帰ってしまったような疑問を感じていました。このような模索を続けていた時、JACET夏期セミナーを知り、大学セミナー・ハウスを知ったのです。

ここに、大学のためのこのよう

な施設があるとは、それまで知る由もなく、たち並ぶ百余のコテージと緑の木々が、ただただ新鮮な驚きでした。二週間の合宿生活というものも初めての経験で多少の不安もありました。が、太陽のあるうちは講義と討論を、日が沈んでからはインフォーマルな話し合いをと、あつという間に過ぎてしまいました。食事を共にし、コテージを共にし、夜ふけまで語り合い、英語教育の問題だけでなく、人間の根本的な生き方の問題に至るまで、多くを学び、勇気づけられた思いです。そして多くの師を見出すことのできた喜びは他の何物にも代え難いものと思っています。

「いろは坂」を登りつめて、一瞬、息をのんだ風変わりな逆三角形の建物。後日「大地にくさびを」の象徴であると感じ、この地にあるのは自然とその気風によく溶け込んでいる感じがいたしました。しばし俗世を離れて生命の洗濯をするもよし、自他を別の視点からとらえなおすもよし。合宿生活の良さを見直した思いです。この地に最初にくさびを打ち込んだ方々の心意気に、教育者としての熱意、情熱が感じられます。荒地にくわと水を……。怠け者の一年生には水の方がうれしくとも、多くのくさびを重荷とせず模索を続けてゆくことの大切さを学んだ思いです。

第27回日米学生会議を終えて

第27回日米学生会議実行委員長 和田昭穂

8月23日の米国代表団帰米を最後に今年の日米学生会議も終わりを告げた。昭和9年の第1回会議以来、今年で四一年目を迎えた(太平洋戦争による中断のために回数は二七回目となる)。この会議は、日米両国学生の自由な意見交換を通じ相互理解・友情を促進しようという目的で日米交互に毎年開催されている。

今回の会議は、現代日本社会を明治維新以来の近代化・西欧化の文脈の中で理解しようということ、「近代化を問う」の総合テーマの下に開かれた。構成として

は、大学セミナー・ハウスでの八王子会議でまず我々の抱える問題を明らかにし、鹿島臨海工業地帯、四日市、高野山、広島、島根を巡る研修旅行を通じ我が国の現状を直接、実地に研修し、最後に京都国際会館に於ける京都会議で、一ヶ月に亘る経験、会議をまとめ上げ、報告書を作成するという形で行った。

八王子会議は右のように、会議プログラム中の根幹であったわけだが、両国学生が互いに胸襟を開き親睦を深める場としても理想的であった。日本文化紹介のための

The Daigaku Seminar House (and its facilities) was an excellent location to hold such a conference. The beautiful surroundings offered a peaceful atmosphere in which to relax between discussions and meetings. It was a very positive experience for the members of both delegations to be able to live, eat, and study together for the week.

The evenings were often used to relax and get to know each other. One night was spent as a 'Japanese Night'. This included a Bon Odori—in which the delegates from both countries participated dancing, beating the drum, and drinking sake. American Night involved singing, dancing, and comedy based on regional accents. A tour was taken around the States using slides explained by each American delegate.

At other times, small groups of Japanese and American delegates would go into town for the evening to shop and relax from the day's meetings. These times were equally valuable.]

As a result of the week spent in such close contact at Hachioji the conference proceeded with its study tours with a new feeling of friendship and mutual understanding.

Lisa Tumarkin
University of Florida

(第27回日米学生会議米国側参加者)

ジャパニーズナイトに於いては、地元の方の盛大な御協力による盆踊り大会、市川昆監督の映画「京都」上映などがあり、昼間の会議の緊張をほぐし友誼を深めるのに大きく役立った。また、我々の宿泊施設であるユニットハウスは、深夜の会議に絶好であり、毎晩、昼間の公式の討論の場では話し合えないような、より身近で個人的な話題—学生生活、将来の生き方等の話に花を咲かすグループが絶えなかった。

日米学生会議と大学セミナー・ハウスとのお付き合いも今回で五回、九年目である。米国での会議は常に大学の寮、校舎を利用して行われるが、日本の場合それだけの施設を持つ大学はほとんど皆無

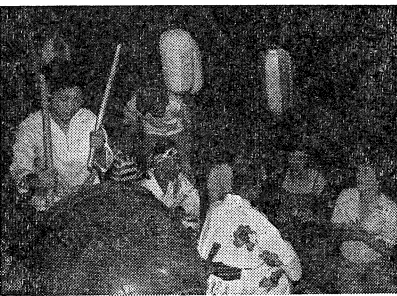
であり、東京近郊で会議を開く限り、自然環境・施設を何より大きい問題としてのコストの面からいって、ここに勝る施設は他にない。大学セミナー・ハウスの関係者の方々には、今後とも是非御高配のほどお願い申し上げます。(東京大学3年)

利用状況

◆4月
** 同月2回利用
** 同月3回利用
** 同月4回利用

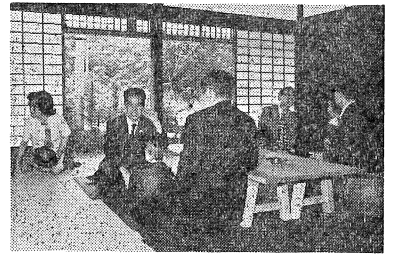
明治大学教授 喜多 登
東京大学助教授 鈴木 博
成蹊大学助教授 木村 久男
東京大学助手 近藤 和彦
東京経済大学教授 高山 満
明治学院大学教授 *神保 信一
慶応義塾大学教授 西川 俊作
日本大学教授 笠原 正成
東京女子大学講師 宮崎 犀一
明治学院大学助教授 中山 弘正

青山学院大学教授 坂井 正廣
一橋大学教授 竹内 啓一
東京理科大学教授 大澤綱一郎
東洋大学教授 周藤 吉之
成蹊大学教授 宇野 重昭
武蔵大学体育連合会リーダーズキャンプ
東京大学助教授 有馬 朗人
明治大学助教授 設楽 正雄
中央大学助教授 江副 敏生
共立女子大学旅行研究部 松本 恒之
東洋大学助教授 松本 康男
法政大学講師 佐藤 康男
東京医科大学新入生オリエンテーション
青山学院大学教授 原 豊
日本大学助教授 川西 誠
東京外国語大学教授 *竹内与之助
中央大学助教授 村山 元英
明治学院大学助教授 磯部 浩一
日本大学助教授 中山 隆祐



やぐら太鼓も高らかに、外国人学生も一緒に盆踊り大会

法政大学講師 土方 保
法政大学助教授 今井 則義
法政大学講師 廣田 明
東京学芸大学助教授 小川 博久
早稲田大学助教授 穂積 信夫
早稲田大学助教授 大即 英夫
早稲田大学講師 深沢 実
早稲田大学助教授 白尾 恒吉
東京都立大学助教授 松本 武子
日本女子大学助教授 金子 六郎
立教大学助教授 澤木 敬郎
立教大学陸水学自主ゼミ 早坂泰次郎
早稲田大学工学部新入生オリエン



遠来者に歓迎あり——永井文部大臣と正田理事長

テーション

- 武蔵大学教授 横山 定雄
- 早稲田大学助教授 寄本 勝美
- 日本大学教授 名東 孝二
- 青山学院大学助教授 長谷川浩一
- 東京家政大学助教授 橋口 英俊
- 東京都立大学助教授 小林 徹郎
- 東京都立大学助教授 横田 忠夫
- 青山学院大学講師 笹森 健
- 明治学院大学教授 大島 貞夫
- 一橋大学教授 佐々木潤之介
- 東京都立大学教授 水沼 知一
- 専修大学助教授 竹林 代嘉
- 武蔵大学助教授 南部 鶴彦
- 専修大学教授 萩原 稔
- 専修大経営学部出手ゼミ論文作成
- 独協大学教授 波多野諠余夫
- 東海大学医療技術短期大学新入生
- オリエンテーション
- 東京都立工科短期大学機械工学科
- 新入生オリエンテーション
- 東京都立工科短期大学生産管理学
- 科新入生オリエンテーション
- 女子美術大学教授 郡山 正
- 英語教育協議会 (E L E C)

- 江戸川久保田会(幼稚園教育)
- 早稲田奉仕学生会
- 日本W F A
- 日本赤十字社幹部看護婦研修所
- 日本ボイスアウト東京第200団
- 全国幼年教育研究協議会 *西 健
- 日本Y W C A同盟東山荘
- 第4回国際学生セミナーBセクション
- ユニユニオン
- タイトルゼミ(受験勉強)
- 東京基督伝道館
- 東京情緒障害児保育者研究会
- 川鉄商事新入社員合宿訓練
- 兼松ユニビックス販売
- 東京郵政局人事部訓練課
- 八王子大丸労働組合
- 稲城市役所新規採用職員研修
- 立川高島屋労働組合
- 電気通信総合研究所
- 小西六写真工業
- 【個人利用】
- 一橋大学学生 山崎 雅男
- 工学院大学助教授 *今井 義夫
- 玉川大学文学部学生 三上 勝道
- 中島特許事務所 *中島 敏
- 東京外国語大助教授 河島 英昭
- 東京都立大学職員 小池 昇
- ◆5月
- 東京大学哲学研究会
- 東京農工大学教授 藤沢袈裟利
- 早稲田大学教授 松田 正一
- 明治大学文学部ゼミナール協議会
- 学習院大シニエイクスピア劇研究会
- 中央大学通信教育部憲法合宿ゼミ
- 大妻女子大学 S E S
- 東京大学教授 大田 堯
- 慶応義塾大学教授 横田 仁

- 上智大学教授 *吉田 裕
- 武蔵工業大学教授 鈴木 光治
- 東京大学講師 中山 茂
- 東京大学助教授 岡村 甫
- 東京大学教授 関口 忠
- 慶応義塾大学教授 小田 英郎
- 東京外国語大学教授 竹内与之助
- 早稲田大学本庄計画チーム
- 中央大学講師 木下 徳明
- 法政大学教授 坂口 康
- 青山学院大学助教授 長谷川浩一
- 東京理科大学助教授 増田 勇三
- 明治学院大学教授 青木 博
- 東京学芸大学理科教育学科新入生
- オリエンテーション
- 東京都立大学教授 江藤 价泰
- 一橋大学外交問題研究会
- 日本女子大学教授 広田 寿子
- 東京工業大学教授 石本 新
- 法政大学助教授 松崎 義
- 明治学院大学教授 増田 茂樹
- 青山学院大学教授 和田 栄治
- 東京大学教授 小林 直樹
- 東京学芸大学助教授 近藤 恒一
- 明治学院大学社会学部新入生オリエンテーション
- 明治学院大学教授 神保 信一
- 東京大学助教授 井手 久登
- 東京工業大学助教授 原 芳男
- 東京経済大学教授 富塚文太郎
- 国立音学大学講師 片山 暁子
- 和光大学教授 中野 光
- 女子聖学院短期大講師 小倉義明
- 立正大学教授 杉澤 新一
- 東京都立商科短期大学経営学科オリエンテーション
- 工学院大学教授 波多江健郎

- 利用者必携『大学セミナー・ハウスの生活は』
- ▽利用者のしおりをつくる△
- 当ハウスも今年が開館して満十年である。時代の変化は激しく、「豊かな社会」の中で風潮は荒廃の一途をたどるかに見える。学生という若い世代が時の流れの中で変わるのも当然である。そんなときこそ礼節が大切であり、思いやりが必要であり、集団生活には参加者の自己規律が殊に重要な条件
- 神奈川大学助教授 小林 甫
- 立正大学助教授 斎藤 昌男
- 文京女子短期大学新入生オリエンテーション
- 東京都立商科短期大学新入生オリエンテーション
- 市立大月短期大講師 村越 洋子
- 東京都立川短期大学新入生オリエンテーション
- 芝浦工業大学教授 高橋 清
- 玉川大学助教授 彦由 一太
- 高座キリスト教会青年会
- 心理セラロジ研究所
- 心理教育社会研究会
- 堀ノ内キリスト教会
- 基督教経済懇談会
- ジャズベースキークラブ
- 核融合理論研究会
- 奨新生活運動協会
- 社会思想史研究会
- 第76回大学共同セミナー
- 伊勢丹労働組合
- 日産自動車村山工場

- 当ハウスではどのような生活が期待されているかを利用者の方々を知っていただくため、小型のしおりをつくった。キャンパスの案内図、生活上の心得などが詳しく書いてある。この丘には「教育」があるといわれる。利用される学生諸君は当ハウスの支持者として、設立の目的に協力して下さい。
- 小西六写真工業*
- 八王子大丸労働組合
- 山村硝子製造課研修グループ
- 【個人利用】
- 鶴見大学教授 井村 君江
- 東京薬科大学助教授 山川 敏郎
- 中島特許事務所 中島 敏
- 東京工業大学助教授 長松 昭男
- 大東文化大学助教授 鈴木 順子
- ◆6月
- 東京都立大学教授 江藤 价泰
- 東京外国語大学教授 *竹内与之助
- 成蹊大学教授 松葉 邦敏
- 法政大学教授 今井 則義
- 東京都立大学教授 林 栄夫
- 明治大学教授 高木 亀一
- 電気通信大学通信工学科新入生ゼミナール
- 法政大学教授 渡辺 一夫
- 一橋大学助教授 山沢 逸平
- 東京学芸大学教育学科新入生オリエンテーション
- 慶応義塾大学教授 小茂鳥和生
- 東京経済大学教授 色川 大吉

●館長日記から

多忙にして酷暑の夏であった。利用者が月五千人を超すことは極めて珍しい。今年の7月は盛況で五、七七八という記録をつくった。8月にも四、八二二人であった。フロント、宿舎などの係は殊の外忙しのに、お客さんが多いのは活気があってうれしいですよといった。その意気が、この丘を繁昌させているといっている。◇朝日新聞の論壇が開館十年を祝ってくれたというので、張り切って書いたのが、4月17日掲載の「大学セミナー・ハウスの十年」である。公けの報告書でもあり、協力と支援を寄せて下さった方々への礼状でもある。◇新入生と一緒に泊っておられた東京医科歯科大の勝木学長と4月10日の朝食を共にした。老学長の姿が若く見えるのも、朝の食堂光景である。◇衆知の如く故佐藤喜一郎氏は建設の大恩人である。◇逝去され早くも一年、その一周忌が4月28日三井クラブで催された。人の世の出会いの不思議さをこの日も痛感させられた。私はこの人との出会いに感謝するばかりである。◇落成祝いの乾杯をされた南原繁先生には共同セミナーの講演をお願いしたり、時には心からの忠告をうけたり、私にとっては、かけがえのない精神的支柱であった。この偉大な先達の一周年が6月19日に行われた。その歌集「形相」で先生

の人と思想を知ることができる。

◇日本聖書協会創業百年を祝う会が9月15日に催された。その百年史の中にカトリックとプロテスタントの共同訳聖書の実現という一節がある。この翻訳の会場として当ハウスが再三利用されたことが記録されている。新旧キリスト教の接近に役果たしたことにものろうか。◇大学英語教育学会は夏が来るに必ずやって来る勉強家グループである。運営に当る諸教授とはいつの間にか友誼を結ぶ間柄になった。7月23日には遠来荘でお別れの茶席を設けた。この学会の研修会も来年は第十回になるという。何らかの優待をもって迎えねばなるまい。◇文部省の「厚生補導」8月号に、「国際感覚を育てる場と機会」という拙文を書く。明日のハウスはそのような役割を果たしたい。◇エネスコ・アジア文化センターのアジア地域の出版人セミナーが大学院セミナー館で開催された。9月11日、彼らを遠来荘の茶室に招いたが大喜びであった。これも民家なればこそ効果がある。◇個人で「聖書愛読」を月刊している前田護郎教授は早くからの千人会員である。お目にかかる度にこのニュースを第三种として月刊にするようにと勧めた下さる。郵便料金も格段に安くなるし、PRに一段と便利である。十周年を迎えたこの機会に本気に考えてみたい宿題である。

都立大学法学部新入生セミナー	日本工業技術連盟	立教大学教授	三戸 公
東京工業大学教授	アジア比較文化研究円卓会議	工学院大学助教授	須田精二郎
早稲田大学教授	東京都公立保育研究会	東京大学助教授	市川 新
慶応義塾大学教授	第77回大学共同セミナー	大妻女子大学講師	神保 信一
千葉商科大学教授	第12回大学教員懇談会	日本大学助教授	牧野 光雄
国際基督教大学人文科学科新入生	フジタ工業	慶応義塾大学工学部研究会	東大 信行
オリエンテーション	日建設計	東京大学教授	北垣 信行
早稲田大学教授	小西六写真工業八王子工場*	大妻女子大学英語集中訓練	隈部 直光
明治学院大学教授	大正海上火災	東京農工大学工学部PST総会	松井 源吾
東京都立大学助教授	伊勢丹労働組合	早稲田大学教授	安井 郁
明治学院大学教授	スリーポンド	法政大学教授	大橋 幸
学習院大シニイクスピア劇研究会	京王プラザホテル	東京学芸大学助教授	星野安三郎
東京大学教授	沖電気工業八王子事業所	一橋大学茶道クラブ	相沢 久
法政大学心理学研究会	【個人利用】	東京学芸大学教授	岩下 秀男
明治大学教授	坂下町役場	上智大学教授	遠藤 邦彦
一橋大学外交問題研究会	読売新聞社文化部	法政大学教授	小林 靖二
早稲田大学中南米研究会	◆7月	早稲田大学英語研究会	澤島 侑子
東京大学助教授	東洋大学講師	早稲田大学英語研究会	松下 満雄
津田塾大学講師	武蔵大学教授	日本大学講師	瀨川 渡
東京都立大学助教授	東京外国語大学教授	東京都立大学教授	小川 作一
千葉商科大学教授	武蔵大学助教授	お茶の水女子大学教授	三橋 文明
青山学院大学加藤グループ	東京教育大学教授	法政大学技術連盟	中川 作一
慶応義塾大学助教授	東京都立大学教授	上智大学助教授	松原 保信
電気通信大学助手	学習院大学教授	日本大学教授	大田 貞正
東京学芸大学幼稚園科セミナー	学習院大学哲学総合セミナー	法政大学教授	坂本 清
職業訓練大学校新入生合宿セミナー	東京都立大学助教授	中央大学教授	川原 栄峰
日本女子大学附属高等学校	東京大学教授	法政大学教授	安味 貞正
東海大学講師	お茶の水女子大学文・教育学部新	明治大学マーケティング研究会	藤原 保信
白梅学園短期大学新入生オリエン	入生オリエンテーション	早稲田大学教授	大田 貞正
テーション	慶応義塾大学助教授	早稲田大学教授	坂本 清
神奈川大学助教授	お茶の水女子大学理・家政学部新	武蔵工業大学助教授	川原 栄峰
職業訓練大学校調査研究部長	入生オリエンテーション	大妻女子大学教授	川原 栄峰
宗 像之介	東洋大学教授	早稲田大学教授	半谷 高久
計測自動制御学会第4回制御理論	東京学芸大学数学科有志	早稲田大学教授	半谷 高久
シンポジウム	慶応義塾大学教授	早稲田大学教授	半谷 高久
世界連邦建設同盟	日本大学教授	早稲田大学教授	半谷 高久
日本看護協会	中央大学教授	早稲田大学教授	半谷 高久

東京大学タウンデザイン研究会
立正女子短大教授 木名瀬信也
独協大学教授 林 俊一
東京キリスト教短期大学教授
第78回大学共同セミナー
山梨英和短大助教 小菅 東洋
日活テレビ映画芸術学院講師
飯塚 二郎

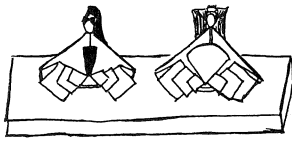
桑沢デザイン研究所助教 遠藤 誠之
日本女子体育短大教授 高橋知子
早大・明大合同ゼミ
芝浦工業大学教員会議
通訳ガイド養成所
相模女子大学茶道教室
日本工業技術連盟
婦人国際平和自由連盟
ローターアクトクラブ
大学英語教育学会夏期セミナー
横浜Y.M.C.A
幼児教育研究サークル「どんぐり」
国立教会
杉浜一言カウンセリンググループ

文部省科学研究費総合研究班「液
体物性」
第27回日米学生会議
日本ホーリネス教団横浜教会
スリーポンド*
京王プラザホテル**
日本化薬
小西六写真工業
【個人利用】
東京経済大学学生 牧田 大輔
工学院大学助教 今井 義夫
名古屋信用農業協同組合
長谷川隆雄
県立静岡女子短期大学助教
瀬川 俊一

◆8月
東京理科大学教授 伊丹 邦夫
慶応義塾大学憲法学習会
東京都立大学助教 北沢 右三
東京大学助手 大島 利雄
東京都立大学助教 田辺 良美
立教大学文学部心理学科

●お土産にマツチびな——セミナー・ハウスの特製品

お土産は買ったものより心のこもった手作りのものに優るものはない。外国からのお客様には、当ハウス女子職員の手による特製お土産を差し上げて喜ばれている。これは去る一月、毎日新聞の投書欄にひな人形を譲って



下さいと呼びかけた時に、杉並区に住む新田百代さんが、外国人の学生に差し上げてはと作り方を教えて下さったもので、白いマツチ棒と適当な包装紙や色紙、かまぼこの板などを材料とした内裏びなである。
女子職員が仕事の合間にせっせと作り始め、一ヵ月間で六〇セットを用意して、早速、日米学生会議、アジア人学生会議に参加した外国人学生にプレゼントした。

東京大学教授 齋藤 真
東京都立大学助教 *倉沢 進
東京都立大学助教 小西 悟
東京都立大学助教 桐谷 維
武蔵大学教授 横山 定雄
中央大学講師 竹前 栄治
青山学院大学教授 松村 康平
早稲田大学教授 鈴木 重勝
東京都立大学助教 唄 孝一
東京外国語大学英語研究会 加藤 寛
慶応義塾大学助教 関田 寛雄
青山学院大学助教 関田 寛雄
東京都立大学助教 飛田 満彦
専修大学英会話研究会 持田 栄一
東京大学教授 志賀 英
日本女子大学助教 高野 史郎
明治学院大学助教 竹内与之助
東京外国語大学教授 村瀬 興雄
成蹊大学教授 内山 久雄
東京工業大学助手 永野 賢
東京学芸大学教授 永野 賢
学習院大学フランス会部
東京大学分子科学自主ゼミ
成蹊大学教授 篠原三代平
学習院大学教授 寺門 泰彦
お茶の水女子大教授 源野 信子
東京都立大学近・現代研究会
法政大学教授 中川 作一
東京家政大学助教 樋口 英俊
日本大学教授 中島 邦男
法政大学講師 小林 弥六
慶応義塾大学英語会 *山本 登
東京都立大学助教 佐々木隆爾
東京大学助教 長尾 龍一
東京教育大学心理学研究会 井上 和子
国際基督教大学教授 長野 格
大妻女子大学助教 長野 格

都留文科大学教授 和田 明子
埼玉大学教授 須田 稔
千葉大学医学部脳神経外科神経放射線セミナー
アジア人青年学生会議
国際学生技術研修協会
共立女子短期大教授 青山 誠子
東洋女子短大助教 岡田 純枝
杉野女子短期大教授 田村 院司
英語教育協議会(ELIC)
語学教育振興会大学生IIC仏語科
家庭経営学研究会夏期ゼミ
国際経済商学学生協会
日本社会科教育学会
大学連合後藤ゼミ夏季研修*
中国研究所中国語研修
印度哲学研究会
文学教育研究者集団研究会
自主ゼミ(司法試験勉強会)
東京都高等学校英語教育研究会
都立雪ヶ谷高校 津田 幸男
茨城県立高萩高校 川松千賀代
トミー植松語学センター
井土ヶ谷キリスト教会
仙川バプテストキリスト教会
東京第一バプテスト教会
日本聖書神学校
千葉市幼稚園協会
東京基督教伝道館修養会
湘北教育研究会
京王プラザホテル新入社員研修
東京スクールオブビジネスESS
日本化薬技術研修
早稲田速記学校
河川研究会
小西六写真工業

さつき会(読書会)
【個人利用】
アイセック準備会
成城大学教授 中西 進
昭和大学講師 喜多村得也
日本神経放射線研究会
塚本 哲朗
西川大二郎
井原 二郎
石橋 哲成
三浦 永光
岡村 昭
松本 敦博
高野 史郎
中田 睦子
大澤綱一郎
玉川大学文学部
高崎経済大学助教 三浦 永光
第一バプテスト教会 岡村 昭
日本聖書神学校 松本 敦博
明治学院大学 高野 史郎
上智大学学生 中田 睦子
東京理科大学助教 大澤綱一郎
一橋大学自主ゼミ
本号からこの末尾には編集後記を置くことになりました。これも、昭和40年1月に創刊号を出してから十年の歳月が流れて生まれた新しい一つの試みです。
「館長日記」に記されているように、もしも本紙が月刊として発行できるようになれば、まさにニュース性のある紙面づくりが可能となり、会員校、後援者、利用者の方々との連絡が緊密になり、心の通ったお便りが差し上げられます。編集子の夢が実現できますように皆様のご意見をどうぞお寄せ下さい。(能)

■編集後記